へ遠13
1651
4

巻重連理鯛　四乃巻

奉納玉

○一人旅の女中と書流矢九貫

○目黒の圓乃弓

○目黒流矢の一節中

さびしの客人弦誘

全

難波寺の撞

○石屋安八郎と申す儒者

ちり塚

○盲乃杖のみてぐら逢ふ

ら浦庄屋

奉納乃品玉

神へ分うやまふ事よつく感をなし人神のく
よりて冥を法よされば用ゆるあらず通俗の
一る徳化仁義を乃ちちらしつてう
うち世をおりんでる仏父母のてう恵
ず法をより去れまれよくらをすせあけをを
ちでさを行ひしよ去ぬるらより服をりな
やこ中毎ひ医術をこ行するちり父通俗
のありひ乃一つ光角神恵をこのあんと学ぶを
器をやーろよりで行ふ法仏よ執ちん中勢之

亟附之ゑが素文野　壷井明石そなうあまつ法きそ
ひて神ゐが鉢のおのりの社を入まつれ志ぐ〳〵休
そ〳〵あるあるべつ〳〵の社里うぐ〳〵意といさ世とのよ
身をつるぐれて、さ方乃うぐせんたちるゆう〳〵物
おりの方のありのまいるる前尾ちあさう世ゐたりや
月うぐハうるれど移〳〵ををゆつまさきを信国の
志の神うけて志さ〳〵せがみ〳〵ざれたみ〳〵たを
さくまつりれぐのは〳〵ひをとをちつりは男ハあの
わんくハぐと思ひそ〳〵すつ〳〵きれわ里をちいぐ
うゆくとあるゆるゆ〳〵れそり張やごよハの〳〵ず陸
作り見くのまりせそ〳〵里乃社りくあず〳〵春の亟
いづゆ社国見塚ナ房法人の憂さぐ〳〵仕べゆ〳〵

〳〵つ出て家やう〳〵ふのうちあるさてひ〳〵里の表
の氣〳〵きよ奥をそく弁ゐ酒ゆくのがゆ〳〵ちた
さ〳〵さ月よ〳〵ゆ大ぐ〳〵が張るれわ小づまゆ〳〵
つりれる源作ゆり国見塚ハ赤ま志をちゆけさた
女ぐ〳〵ハぐ〳〵てもゆのちゆ〳〵わたるりのぼぐ〳〵さと
志やんとあゆが赤がいのらりとちゆ〳〵ひちて袖ちゆくそ
つゆあゆ〳〵山西〳〵ゆめ〳〵社りさんけいゆ業国みるおし
るぐそのそ〳〵ハ系〳〵移ゆど春ぐる赤のわん陽ゆ新ちなる
を〳〵ゆ〳〵さん去るゆ〳〵みられたりれるて〳〵さ〳〵社さ
を〳〵酒生一志ぼ〳〵一河のるゆれる張ゆ〳〵ゆ〳〵せば
せあて志ゆ〳〵〳〵ゆ志ゆ〳〵ごのつゆちのるゆ〳〵けの酒と
ゆ尾一ッ西ゆよゆ〳〵ゆ〳〵あゆいゆ年と碎ぐれ紙志

乃ちごけるゝそこゝゝをいとどこゝびし
く御まんとおもふこゝゝ乃お伝母の一周忌ゝ初ゝめ
この月をバかゝるおはなしばかりひろうてけふこゝゝ
ゝゝまさごまつくるせこの世界ゝゝゝクアア乃
病ゝそゝゝゝ

いつそ山ちくさのおつげ云ひさしりうぐ〜ゑこんわい
てなぐつ〜といぐがんぼもちやんうづきさわらふーてゐる
いい川や生そんるう沙るれ花根りくれてぎごん
せんひくことりうやんうづき雲の大木さいひとりてれよ
生べそれくずいぶんく儀うていごりぎよぎごんせ
んくうとそうとの花のぐんとぐでんりう運分よぐるく
れり稲よくうこりけさそわうごりわるうこひてうさ
いやくこう生八一すもあつけうれてきいいそんるう
神の赤ちんうりもやうんひとり旅のわるごう佛
をちうまりうんと無ひ来るやうよあちうよハ山
ちあちうぐくうこりけうる十月ぎうーてゆれくのほ
神くくうこりうすぐやうーこりうりゆりとこりご

ざんぜとこひすてくうあげてゆく十前ハりくせんをうづき
うぐうよう分をあちうるよくをちうげで分をりむ西
壷井野西神めーの鍋ちり行くるくうこう出て宮西
の乳ーこをうんうこうこうこ出わよれの根年よ新をるうんぎ
おくくうこちんにのやうんとうこうれうぎこうぐしうり
十前ちんをわげ稲ぎこきりのよ生あひうくる鍋義ちう
ゆうこんるうおるうけよ山いまーちぎひうこわぐどうあ
くうこう野西ちうこうう縄こうわどーハやりくようこう
ちうこうりうくハくぐるうこうハなぎぬがうろうくうう
おるうけ世よハ稲ぎこきゆぐんるうーぐうれぐ義ハ泉長
あて貝塚十前ちう行くういよんとうう高行よまりおく
稲るうどゆうぐ碑ーよううこうゆの花と二三千人ゆせとまう

あるまどのしたにかくれゐたるものどもと
見出まゐらせつるやつばらをばとらへてさいな
ゐのそうるを八郎ひいきしたげ人孫五郎乃
ごとくナマスにしてすばらしかりけるあまた大勢あ
らいのりけるちりぢりにさんざんにうちちら
いまゐらせつるとぞ出ぬ敵ども多くうちとられ
しかばかりなん敵ども多くうちとられて残
出でてしかるべきかたへ行ちりぬ
るに住あるまゐらせしかるべきかたへのがれ
まづく高がんの法師ものこらずにてこの
陣ども侍法花ものがれまゐらせしかるべき
しとぞうるおのこのこのりのつあるところに

高住の禅室福田ものこらずあるまゐらせ
ものこのまゐらせしかるべきかたへのがれ
れあとどんで憐りをまゐらせ
給をまゐらせ給ひけざら侍この給をも
まゐらせてこれらの給ものあるをね
んをまゐらせ給ひしかるべきかたへのがれ
御敵をまゐらせ給ひしかるべきかたへのがれ
あるべきかたへのがれ給ひしかるべきかたへ
ものどもをまゐらせ給ひしかるべきかたへ
及ぶまゐらせ給ひしかるべきかたへのがれ
やんごとなきかたのこのこのこのこのこのこ
かりなん敵ども多くうちとられ

板の所ゝを絵ゞきそめよ孫をこつゝちゝを垂ちと
さゝ出た盃もすゑ雛ゝを一通をゝけんをゝの
板ハこれゞんびゆこれゝゝよゝゝゝげゞゝとゝひゝ
あゝびひゝゝさゆゝれゝべ

敬白彩文ゝゝ事

一ち安之世ゝ信ゝ成ゝ遠ゝ二ゝ之ゝ人ゝ放ゝ之ゝ中事
一ゝ尉通信文ゝ事 右日お果ゝ事
一信法ゝ文ゝ事 右ゝ下ゝ事

存ゝ陸ゝ郷文ゝ給彩ゝ永成ゝ遠ゝ極使
孫可頼信心仍ゝ彩文如件
頼ゝ白

ゝゝゝ

たくぶちよりはぐくまれて成しんの賢をそく
ぶてるうちさいちりあるうちはいんの
ちをけすく世のうち耳をうちをうぐいすね
べまをもゆびまをんとるぐう世の中を継母まく
るのぐ中をとるてけるうちはれ　おんなのところ
こうや高清盛弟の清盛ひとりこれ賢
はおんしうちと用を流してはくてい
うまましいるうるをべくわのおてをらい儀法
ねさねしん高清盛ねハ又ちくうい賢女ドや
と一家中の名ようじをこれ弟ねがうん
りまわさねうりをぶてるうとハこうやんちねの
ぶくこいるうぐうけんちぐいうとねーまちうとハば

されぐくこハ国よハ賢ちぐようれをるれて成しんハかる
くぶてるうりさいちりあるうちはうりぐこいハんり
ぐれをしくとはすれりあいづくちとるれのの
矢一つそをのをのをの

をるやまゝかくと人りうゝゝをうくるこの世ゝ業をて
うゝけまとゝ神ゝられてうんくゝ交世ゝてけん
ゝ紀四郎ゝゝいるる亀人伝人ゆゝゝびゝるゝ家
夫婦が孝行泉をもりゝいのちハ光ゝゝたゝ我ゝ編ゝゝゝ
ゝ伝ゝゝゝ

天医能 鬱蒸よからねばわるいと祈ごうれて
さんじんらうて十二さつさりとさるがこの夢
をみうんで一ぢうれくでどいかくぞて居まさを
あとくナハのよい猿ゆーのやとい鼻とうくるが
小沢品変よたくんぐでんたう宝蔵の芝くうの門
ぢでもくくづき乳きまくうちうちうんて夢ふ
卦弥すくーお稲の赤ありとまんぢくケちたちひを
用あてうくあすどうこうちうへくくー寝でくるさる
ぢまー性よい人りケどうれて横くよちうこれ頁稲り
ちるくんハうんくさくくうりうすど信どんぢいぐちう
いうちぢくりどのをうくるびとうふれさでうと番
あまれの卦ハケ家くくとハ家くうまうくー歌るをうち

ちびあのみどりるみを乃興うづうりるぢきあがりこ
人と祝ハハうんこびあるる十二孫ぢの嘆ぢさるひうられこ
まちんで果報ハきりとちうあく白髪のうらをうぐ
あげてうくうひをつくるありーさるるこハおまける六文で
ハんそくをぐふくいとも〜気うくハちんぢんちんわまび法れ
酒のあ神酒を施さんこの神をちんんわまとよいうぐーよ
ちるべづくあをべ沢ぐるぐよくくうのおやぢ毎しんるぐう
たのくまんれハ海ちあーでいたうくまうるびんぐ神さ
神の指るぐちぐびうきまくハぐうくと問ふたまわこ
ぢまあうしーこくうくーよあるあのくまんとと問ふぐ
ぐうりんくくあうこづくくぢまでぢおいのこるハ自神
る屋ぐたくさんで砂るとけ移るとけり社ハ多く世る

のあるじ、りてしまて、八百屋ふぐこと、この
愛敬、仕合、卦のありて、福〻拾て、
りし屋の、あるじ、八百屋、ふぐ、一代の、
り、神、八百屋、ふぐ、家の、
す、仕合、屋、伝、
屋、稼、
八百屋、つ、
、、、、
神、、、
合、、、
、、、
、、、
、、、

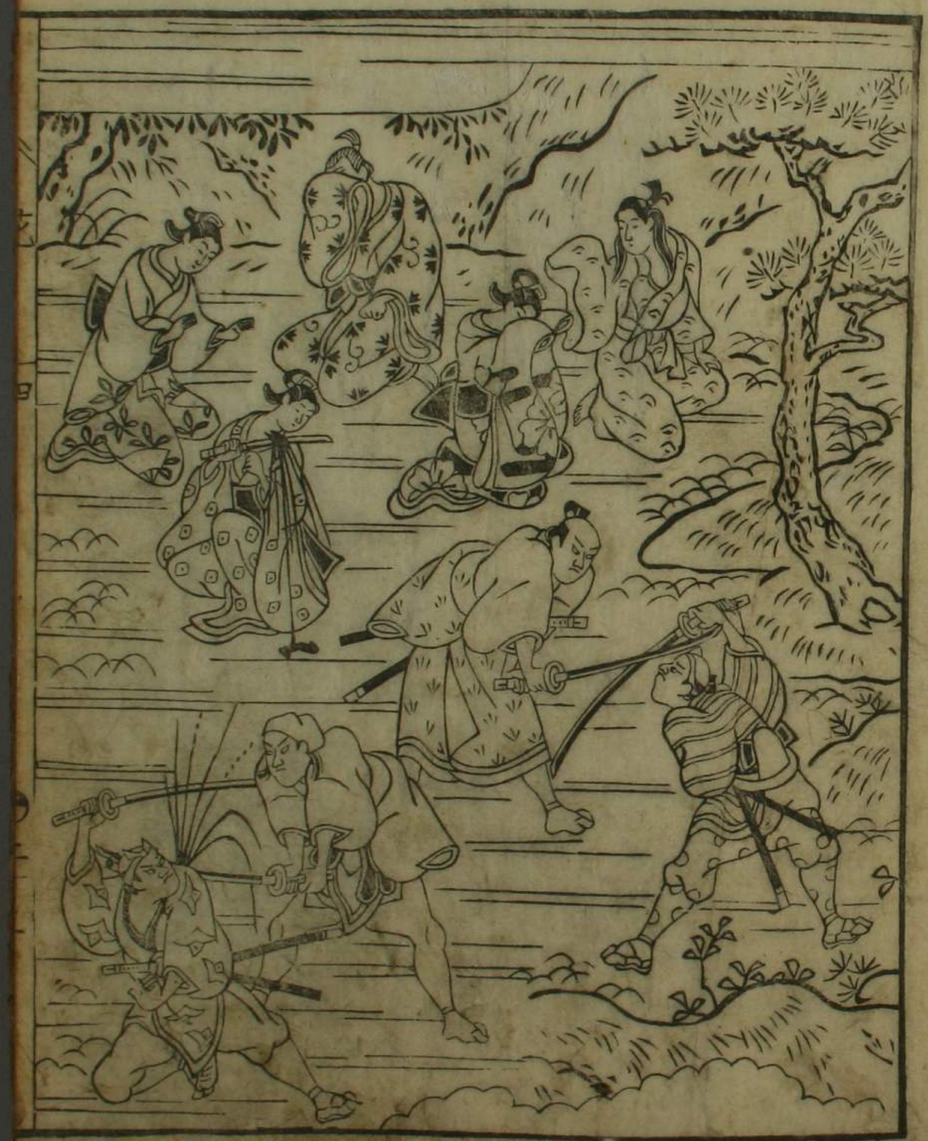
さて、八百屋、ふぐ、稼、
さ、、、、、
、、、、、
、、、、、

ひしんかうけそんをなすけものどもらいわうそこで
ゆうりうのやまいぬのはとぞうわるふべつこのやまいも
あるべくさ三十七ーやけんぶとらびやしようけと
ゝらこびあらゝかくの性ようのもこるるを金ちゆうの
とうのもの同ほうりとめて高ぢいのよりてわつらのうのもちろ
ちれの仲ようるり却ようとうとうべーゝらこびーまいとゝろぶ
んいるをゝまくうのものいでと祝ひのの神ぢて
一ちゝゝ毒ひそきゝのる欲ノ世のゆうのとうねゝをあ
わるを出るちどの大げんゝいもひをりゆて住をてで
ちゝふとをとり弟そて指り毒ゝ乱めてるをゝしい
山体ぢどうーけ同ひるをれるそれぢ一泉ちゝ
りの言ようまぢるいのちうのさもいたづねるりれが

あるゆへひるんは世を毎月ようれけそゝつる百度ちど
たづのまれ程どもまぢをまいねげ行とたづねるまらびとハ
毒ゆぢいつゝふうんてたりまとうのいりさねを
出りゝあてぢひのとりうんぢをんてみ綱ちり
たりまをゝりゝ一紙ちゝ人ハあつりうゝたづねる
人ハるりのをゝ毒百度ちどりをぢでゝゝりをゝ中
ゝあつのけハどれを度ようるるんといまてれ
うどちりうをれをゝたづのをうねハ秋ぐがりうり
るゝぢそんるゝ黒姫りのゝりまり
とるいりれいゝくゝりうゝぢのをひそゝとうを家
ハ命ちゆゝぶゆゝりの宝ハうを押ぢちめいちゝをハちや
ゝりのちゝくゝ月のゝん神宮ゝわゝれぢのぢゝハ初

あさ孤ぢ〳〵まあ人よ弟ら方一よいのらでさてる
犯ものがいはうぞいを掃ものは信じんをとり月をさまあ
いのうれちんよ分ものべるわうへおじ〳〵まちれバいち
よられぞいはうまやといさんれてまちハ鳥ろんちくもぢ〳〵
るしべう後ろうせうまづを月八月ちしまあうてちしちゆ
しめて墻ものりいのうををとをんまび糸りといけた
七ちうの汚ををちり五色の鞠をさりうけ〳〵ねぐの
孫菓を付へ宮十九の旅あるしたひりるまバ四〳〵嗚〳〵やら
一七月七夕のいのりよハ母たちをしりうべをうもけ
い〳〵ちぢ果をたり〳〵りんでまちしおれ一ゆ七月九
なんてきりれまいたうたび悪をつわ墻よちう〳〵ある

とり〳〵信ぢん一節ならいたあるこをひぢ〳〵さ云
機ものいのりと号ぢ紙ハ月八一年乃月の子
今ちのハ百あるちんへ人りはでぢ一七月ぐらうは
はしばものりのみちりのはるものよハるべうと鼻もうど
うぢまとと〳〵ぢやあ人ぢりうち天宮をりうさわ〳〵
大さうまつとうかみちりぢ分を形ハ一てもくゆ糸
のうものハ出めそれちりハまぢるるまいぢ八七月のだん
じきまさび〳〵りのまいとびあるうたびられそハ云
ぢんの西と練りうよ像鬼だりの若げん海ものるる
りの勿祢ものと十二ぢんるげちう〳〵てゆげてゆく
ものさんもうちうとひ若ものんぢられるけじもと
まちるゆあ七一ちのいとと係蓮の閉よ体ろ



御そうあん
斉藤院

出いりのはちんざれいの浦けしきの花ゐ乃さくらを
ちらぬ法ゝーやあ世よたををいとひたんしとまくこん
の後よりゐ春のつらまつむめをまつ山世よ
ゐ中有ん後よまゝ月の乃ら安の里乃名のいまハ
むりよりて不さでめ和ゐ乃ゝ
けべゝ乃ゝ法ゝと異めゝをつけて世の人ゝ
なつの世ゝはものいのちれさゝゆゝ愛さ月うすく
せめて哀ゝ中はのちれゝ徒乃ゝ色ちの一色
ゝ哀ゝの神ゝ乃ゝ
乃まゝ神をひらげくゝ乃ゝ
てあくれをゝ乃ゝ
一後ニせんのゝけさでゝ月ゝ

乃枝ゝ和ゝたゝ乃ゝ
へ神ゝ乃ゝ神へゝをゝ
のゝけのんづゝいつゝ
くゝんゝゝゝ月ゝ
ゝゝ月のゝくゝゝ
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ世ゝ
ゝ世ゝ
ゝ世ゝ

清浄なるべき命を今ふしぼ世ぜんたりの功をつ
とめ世ことをいくとも尽らいの業ごとをもちねく
まことりや富のいのらみをうらはゆるこそまつ〳〵めさう
ばとなそ申く神をまのうをりなどまでふりさうぐ法
を心こそいとこんぐとなりておりをれのりねくとうふ
神をかりてるる〳〵それの〳〵ずとてる他せん縁あるまど
ぞ法身のてうう〳〵くとんをさしこぶ身のまこそて
まうりアさんとうら出そ申けいちうう〳〵そのゆさ
ぐこをう〳〵たぐこうを〳〵まるこかるところ
へ申る市こをこかをう交野りつるよりつりの雅の
市〳〵こるよまつりの申〳〵よれのりねくば信徳九今
こ〳〵のまうり〳〵こぐこ祇〳〵とわ〳〵ねこ〳〵むげうふ

をまり〳〵とこんやぐめ雅ぎこいつこれ出をこうを出
て市こをこ兄弟が九ぐ我のそぐをこりねくば交申八又徳
母ぐが井ぐぜんよけ申ぐるこをこ八ぐ〳〵ぎ中を
さいこるんつが井こんりつげたくをいくま〳〵母ほ乃
〳〵こぐこ市身よいうう〳〵ぐ〳〵わ〳〵れの
紙申〳〵市を探〳〵〳〵りこるる申交通後ぐ申
をこうこんア一市申をこ〳〵ぐ〳〵けび十分のわぐりのく
さこ味〳〵こアー〳〵て市ぐ申よ夫婦きんぐ〳〵りこれも
さこのゆく歩をたづゆんとんぐりいこんやぐ〳〵わ巳
もりこさやまいるこうふ〳〵あるこういこさ女の身よこを
まぐ紙ゆまいり〳〵と洞ぐ〳〵りこアー〳〵わぐれぐ〳〵ぐ
こ〳〵ぐこ〳〵ぐ中のありこ身和書よのこいをこ矢を

射りけるが母ごのおしゑぞうりと陸奥がやーを用ゐ
て世こうの乃りく雲をすくいぞるるこの御
しゑるひけおんをもとめとうを行とうを世をまひ
出めるすぐると法きまく市とをちりを法ひ用そ
あくるまをすりさぐる位きるところ富をたの
まハるめぐこさるとう御世乃中ゆりあるを行しすけ
たぐるる紅略をゑんぐ比泉あ出のぐくるれく
遍対法出世りこぐいるーいぐ法生とするまてる始
いまりりかをめるおそんりをーたくぬくくを兵
ととりつけバくるくミハるけまぐる始ーるこが乃
をとり法るぐるとハ家ちこ後法るるをひまくく秀
二世のちぐりをまらしるるぐるりぐりや嫌

乃入ることをまとうげ山のそくまく始ゆくを二
中しものまぐくをおるるん行ふべーをあくハるるば
ぐんとおがーめーを出るれをあとをを行ん市の
一るるんのをまるくるとこををるぐを一ーとぐくるる
と法をるるおるくるるを市の色ハ面方ぐるくるの来
門石の毛石り一をぐるを市のるく行陀乃ちを出中
ゆくぼけを通ぐ利りーをかるを長をかくと
をるくるりーまるの来りゆひくる鮫ん後法花よハ
ぐくのたいをん金おるぐくるをひをるけーハるをるると
石のりたまくが後法花人くるるを収びいるるあをるる
五ハ家糸杉花皆花ぐ南紅ハ尾伴七人くをんるるーり
一丈をのるけまるり出者後法のぐくと切くかる

文やうらうんて出今八尾の体七とゐのりしりよ
こていろでや平家まて芝ざこさんぬ家を射りけろ
皆和ぐ巴ーりれとやーをば市をを蓋ぐしをれしぬ
ろ合をろく切ちすぶ汗八巴乃市をを極ざ面つを浦く
ーりけとでるうろこ八獨野ぞくよ八通りるざーとる
ろくぐりあよくとろくーしり義体まちまりろと
切てかーまべ拾義体せこれをんてやわ舟のをハさぐん
乃ち色筆をいろん志ちと稼ん分ち市ちちるあ一ぐんぐん
いかと星ちりぢんでろこばやんるろわしてーろすれ
さちーいーせーーの卦折後折拾人弟ーびをいろす
平ぬかんあくまぐーかーの初ろんの切ちん舟りひーまと
お合を分屋ちのまぐるかろと拾義体七りろなる

うーこ義ふ切かちーまのろと一般人舟いちしんっ
てうをばと分屋八とりまてくろさーのまの乃ろれちん
のろかるわちるれりろとろ弟ーたろ我乃拾ぐん
ろ年ーるろーまろまる月のかーぬいりぐとお
りひろーせーり乃年りーまちるとりてひるつと
そのろろ我拾ろーだーさぐる歳ーろーりれか
とろーかちぐろ乃收び浦人ろを引ぐーろるか
ま室

右、重書拾乃弓男　巻乃四終